



始まりは1匹の青い鯉のぼりから。
亡くなった家族を思う気持ちは全国へ広がり、
全国から青い鯉のぼりが集まった。

青い鯉のぼり プロジェクト2011

2011年3月11日。東日本大震災という未曾有の災害は東北に住む人々の生活を一変させました。伊藤健人(プロジェクト共同代表)はこの震災で家族4人と家を亡くし、その中には5歳の弟、律がいました。震災前、伊藤家の恒例行事は毎年5月に家の前に鯉のぼりをあげること。律は空に泳ぐ青い鯉のぼりを見ると、「あれは僕だね!」と指さしではしゃいでいました。

弟の死、まだ見つからない家族、いくつも避けても変わらない時間だけが過ぎて行く日々を過ごしていた時、瓦礫だらけの家の前から、青い鯉のぼりが見つかりました。

それは、律が「これは僕だね!」と指さしていた、あの青い鯉のぼりでした。

泥と汚れを落とし、変わり果てた家の前にその青い鯉のぼりを掲げました。その時、たしかに聞こえた律の声。「今年も空高く青い鯉のぼりをあげてね!」と。

津波で亡くなった子供たちのために、津波の届かない空に天高く、寂しくないように、全国から青い鯉のぼりを集め、空に掲げること。

その思いを胸に、青い鯉のぼりプロジェクトははじまりました。

青い鯉のぼり総数

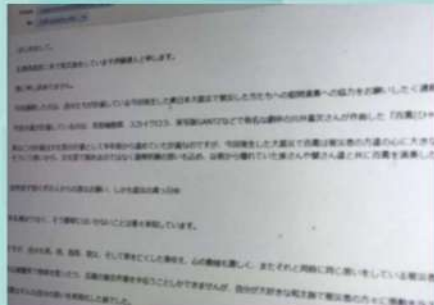
204 旒

主な出来事

2011.3.28

始まりのメール

震災から17日目の3月28日。一通のメールが共同代表千葉秀の元に届きました。送り先は共同代表伊藤健人。当時石巻西高校に通っていた伊藤健人は祖父母、母そして幼稚園に通う弟、律を津波で流され、弟の亡骸が確認され、他の津波被害に遭った家族は行方不明という境遇の中のメールでした。内容はこの先の自分の意志が変わらないうちに故郷の復興の為に、和太鼓の復興と追悼のコンサートを開いてほしいという内容でした。すぐ連絡をとり、会う事を約束しました。



2011.4.6

2つの約束

石巻市のお母さんの実家に身を寄せていた伊藤健人。この日、千葉秀と伊藤健人は初めて会いました。震災で経験したこと、行方不明の家族のこと、家族のこと、そして亡くなった弟律の好きだった青い鯉のぼりの話をしました。その場で被災地沿岸部の追悼と復興のコンサートを開く事、そして青い鯉のぼりを全国から集めて5月5日に、律君や同じ東日本大震災で亡くなった子ども達が天国で寂しくない様に、そして未来を託す子供達が二度と同じような悲しい思いをしない様に、津波の心配の無い天高く大空に青い鯉のぼりを泳がせる約束をしました。



2011.5.5

204匹の青い鯉のぼり

この日、全国から予想を遥かに超える青い鯉のぼりが届きました。TOKYO FMでパーソナリティを務めるやまだひさしさんがラジオで呼びかけ、それを受けたGLAYのTERUさんや布袋寅泰さんがTwitterなどで発言していただき、全国にその情報が伝わりました。復興コンサートを開きたいというメールから始まった繋がり。音楽の持つチカラを改めて感じた瞬間でした。当日は一般者立ち入り禁止区域での掲揚のため、避難された住民の方や律君の通っていた幼稚園生とその保護者、先生そしてマスコミ関係者などにも手伝っていただき無事掲揚し、鎮魂の太鼓演奏を行ないました。




2011.9.25

M's Japan Orchestra「LIVE GROUND ZERO」

もう一つの約束だった復興と追悼のコンサートを東松島市の隣町美里町で開催。AUN-J、朋郎、JIWON、柴田三兄妹、勝詩、日浦孝則、川井憲次なども参加しての邦楽コンサートとなりました。会場前には5月5日に見せられなかった「青い鯉のぼり」も掲揚し、一般初公開となりました。開催は約束したものの、舞台上で演奏するかどうかは本人の練習の成果次第だった伊藤健人もプロ和太鼓奏者と共に演奏しました。





復興への第一歩を歩み始めたまち。
地域の青い鯉のぼりは
鎮魂と復興のシンボルへ。

青い鯉のぼり プロジェクト2012

3月11日という日は忘れることのない、特別な日。発災から1年が経った2012年3月11日から、再び青い鯉のぼりが東松島の空に泳ぎはじめました。

日が経ては経つだけ大きくなる心の中の悲しみ。目まぐるしく過ごしたこの1年の中で生まれた過去への後悔、未来へと進んでいくことの決意。それらを青い鯉のぼりと太鼓の演奏に込め、思いを発信した時、天に思いは通じ、その姿を見た人々の心は動き、未来への歯車が回りだしました。

この年から青い鯉のぼりプロジェクトは3月11日に小さい青い鯉のぼりを掲揚し、4月中旬に大きな青い鯉のぼりを掲揚、5月5日にはその日までに集まった青い鯉のぼりを更に掲揚する流れを開始。そして5月5日、「青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 Vol.1」を開催。

この年は「地域の絆」がテーマ。震災後、もう変わり果てた姿の故郷を見たくない、足が遠のいていた地元のみなさんもいました。そんな中でも、青い鯉のぼりを目印に、青い鯉のぼりの下には地元の方々、全国から応援してくれる方が集い、太鼓の演奏、炊き出しが行われ、この場所にしかない、「繋がり」が生まれました。

青い鯉のぼり総数

379 旆

青い鯉のぼり
プロジェクト

Events of the year 2012

主な出来事

2012.3

映画「PRAY FOR JAPAN」全世界公開



2012年3月。宮城県石巻市舞台にしたノンフィクションドキュメンタリー映画、「PRAY FOR JAPAN」が公開されました。異なる4つの被災体験が語られるこの映画の中の1つに青い鯉のぼりプロジェクトが取り上げられました。共同代表伊藤健人は被災当時17歳。「家族」という視点で、その時に感じた生の感情が被災当時の映像と共に描かれています。この映画の上映をきっかけに、その後繋がっていく沢山の仲間と出会うことが出来ました。

2012.5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会



開催日時:2012年5月5日
開催場所:大曲浜新橋たもと
掲揚数:379旒



青い鯉のぼり プロジェクト2013

誰も経験したことのない大災害となった東日本大震災。復興への道のりは毎日が手探りで、それぞれが描く未来の姿を手繰り寄せながら、進んでいく毎日。そんな日々の中、この年の3月、共同代表伊藤健人の家が解体されました復興への道のりの中で、必要なことだと分かっているにもかかわらずこみあげてくる在りし日の思い出。この家が残ってくれたから、青い鯉のぼりプロジェクトは生まれたのかもしれない。全ては過去から繋がって、未来への道の上に立つ自分に繋がっている。もう一度気持ちを奮い立たせ、前に進む決意を新たにしました。

プロジェクトも転換期を迎えはじめました。掲揚場所は今後産業用地として整備されていき、この場所ではずっと掲揚することが出来ない可能性がありました。鎮魂の思いから始まり、未来へ思いを発信する存在となり始めた青い鯉のぼりプロジェクト。プロジェクトメンバーで話し合いを重ね、今後半永久的に青い鯉のぼりが掲揚される未来を作るために、「お祭」として続いていけたらいいね、と思いを共有しました。

主な出来事

2013.3

伊藤健人の家が解体



2013年の3月。共同代表伊藤健人の家が解体されました。故郷である大曲浜に襲来した津波は高さは5.7m。家の半分は流失し、残った一部も2階の床上まで水は到達していました。それでも残ってくれたこの家が解体されることはまるで家族を殺されてしまうような気持ちでした。家族全員がまた残ってくるのを待っているかのように立ち尽くしていたこの家。青い鯉のぼりが見つかり、2011年の5月5日にはこの家の前で青い鯉のぼりプロジェクトは立ち上がりました。沢山の方々の応援、思いをいただき「絆」の意味を皆で分かちあった大切な場所です。そしてこの日、Zero-One瓦礫再生プロジェクトにより茶の間の柱が回収され、健人と家族の思い出が詰まった再生和太鼓の製作が始まりました。



2013.5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.2



開催日時:2013年5月5日
開催場所:大曲浜新橋たもと
掲揚数:522旛

時を超えて届いた母からの手紙。
形を変えても傍に居る家族。
一人じゃない。青い鯉のぼりは世界へ！



青い鯉のぼり プロジェクト2014

この年は多くの出来事がありました。この年、共同代表伊藤健人は20歳。成人式に参加した時貰った記念品の中に、あるものが入っていました。それは震災により亡くなった母が中学から高校に上がる時、伊藤健人に対して書いた手紙でした。本人には内緒で書かれたその手紙を開いた瞬間、在りし日の母の姿、声、匂い、すべてが鮮明に蘇りました。

「どうか夢を持って、毎日を生きて下さい」

生活や体調を気遣う母の優しさが沢山詰まったその手紙の最後には、そう書いてありました。時空を超えて届いた母からのメッセージ。かつて住んでいた家の大黒柱は太鼓に姿を変え、伊藤健人の元へ。胸の真ん中で感じた暖かい気持ち。その思いを胸に、青い鯉のぼりはこの年、海を渡ってアメリカの空を泳ぎ、2011年に繋がったGLAYさんが開催した「GLAY EXPO」の会場にも青い鯉のぼりが泳ぎました。

全国、そして世界へ広まった青い鯉のぼりプロジェクト。全国各地で青い鯉のぼりを広める活動が動き始め、抱いていた未来の「お祭」を目指す思いは「100年先まで続くように」とより具体性を帯び、未来に進んでいく合言葉となりました。

青い鯉のぼり総数

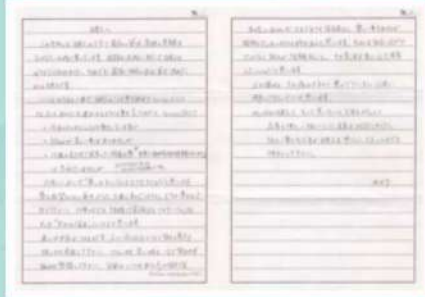
626 旒

青い鯉のぼり
プロジェクト

主な出来事

2014. 1.30

母からの手紙



共同代表伊藤健人はこの年成人式を迎えました。地元東松島市で迎えた成人式。友達との再会し、互いの近況を報告しあいながら過ごしたその日、祝成人の記念品が入った紙袋が渡されました。写真などが入っていたその中に入っていた1通の手紙。後日、誰からの手紙だろうと開封したとき、そこには見覚えのある文字が。それは震災で亡くなった母からの手紙でした。中学校から高校生に上がる時、母から伊藤健人に対して書かれたその手紙。

一瞬、思考が停止し、次の瞬間、心の中から暖かい気持ちとともに、母の声、姿、匂い、ぬくもり、それらが鮮明に蘇りました。まるで目の前で母が生き返ったような感覚すらありました。記されていたのは母の息子を思う気持ち。体調を気遣う言葉、今どんな仕事をしていますか?、そして、今「夢」はありますか?と。時を超えて届いた母からの思い。

この時に心に抱いた気持ちは、かけがえのない、大切な大切な暖かい気持ち、それを強さに変え、未来へと進んでいく大きな力を貰うきっかけとなりました。

2014. 3

世界がわが家 At Home In the World

3月、あしなが育英会とヴァッサー大学の特別共同公演、「世界がわが家」に共同代表伊藤健人が参加。アフリカウガンダの子供たちのダンス、津波で被災した東北に住む子供たちの和太鼓、アメリカヴァッサー大学のコーラス部(聖歌隊)によるこのコラボレーションは「レ・ミゼラブル」などのミュージカルを演出したジョン・ケアード氏により演出されたステージでした。異なる境遇と環境で生きてきた者たちが共に同じ舞台に立ち、時にぶつかり合い、仲間として昇華し、1つのチームとして発せられたメッセージ。国や文化を超えて、世界が自分たちの「わが家」だということを舞台の中で体現しました。



この年の震災当日はエイズで親を亡くしたアフリカウガンダの子供達が生きて初めて経験する雪の中、被災地のために手を合わせてくれました。彼らも同じく、病気で家族を亡くした過去を経験していました。この出会いを通じ、言葉が通じなくても、抱える思いと、祈る思いは同じだということ。自分達だけが辛い経験をしている訳ではない。共に同じ場所に立ち、思いを共有することはできる。国や文化、宗教、環境を超えて分かち合った絆は、震災から3年経ったこの日を超えていくための大きな力となりました。

初演をこの年行い、このミュージカルは2015年にアメリカ公演、2016年にはウガンダ公演で公演を行いました。異なる場所で同じ時間を過ごし、3年間で得た繋がりは何物にも代えがたいものとなりました。

2015. 5.5

家の大黒柱を使った桶太鼓が伊藤健人の元へ。



家族の思い出が詰まった家。瓦礫になってしまってもゴミとは言わせない!そんな思いから始まった「ZERO-ONE瓦礫再生プロジェクト」というプロジェクトがあります。瓦礫の中から木材を採取し、思材(しぎい)として楽器に生まれ変わらせるこのプロジェクトでは、和太鼓をはじめ、三味線、スネアドラム、ベースなどが制作され、アーティストはその楽器を通して東日本大震災を後世に伝えていきました。その一環で、共同代表伊藤健人の家の大黒柱で桶太鼓が作成されました。資金をクラウドファンディングで集め、完成した桶太鼓は5月5日に行われた青い鯉のぼりの下で腰を下ろす会で伊藤健人にプレゼントされました。あの津波に耐え、伊藤家を見守ってきた家は解体されてしまったけれど、こうして自身が好きな太鼓に形を変えて、またこうして傍に居てくれる。その事実が嬉しくて、母からの手紙と同じように大切なものとなりました。

主な出来事

2014.5.5

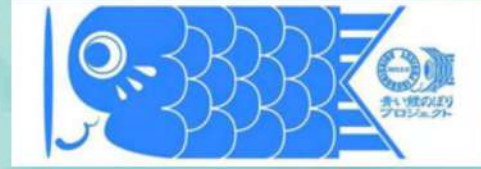
青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.3



開催日時;2014年5月5日 開催場所;大曲浜新橋たもと
掲揚数;626旒

2014.5.5

青い鯉のぼり手ぬぐい販売開始



この年からプロジェクトに参加した証を残すため、青い鯉のぼり手ぬぐいを制作し、販売開始しました。プロジェクトに参加している仙台コミュニケーション専門学校(現仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校)の学生がデザインしたこの手ぬぐいはその後関連イベントなどでも販売されるようになりました。これによる売上金は、毎年掲揚できるように青い鯉のぼりプロジェクトの運営基金として「青い鯉のぼり基金」へ充てられています。

2014.5

虹の鯉のぼりプロジェクト

青い鯉のぼりが沢山掲揚される青い鯉のぼりプロジェクト。山口県光市では、青い鯉のぼりプロジェクトに賛同し、虹の鯉のぼりプロジェクトがスタートしました。青以外の鯉のぼりが掲揚されるこのプロジェクトは東北に泳ぐ青い鯉のぼり達を「お父さん、お母さんも見守ってるよ」という思いを込めて掲揚されています。2013年に東松島市を訪れた浅江中学校の生徒の一言から始まったこのプロジェクト。2016年にはプロジェクトメンバーも山口県に行き、伊藤健人の講演とプロジェクトメンバーの演奏が行われました。離れていても空と海と心で繋がっている。その思いの元に、現在も活動が続けられています。



2014.7

青い鯉のぼりプロジェクトinアメリカ

青い鯉のぼりはアメリカへ。アメリカから日本に思いを馳せる多くの方々の思いによって実現したこのツアー。プロジェクトメンバーと共に海を渡り、現地の方々の日本に対する思いを共有し、伊藤健人は人生発の海外での演奏。母の手紙にもあった「夢」が実現した瞬間でもありました。そしてアメリカの空に上がった青い鯉のぼり。プロジェクトメンバーとはツアー中苦楽を共にし、時に支えあい、時にぶつかりあい、絆を強くして日本に帰国。人種や文化が異なっても、集う思いは同じ。それを実感したツアーとなりました。



Events of the year 2014

主な出来事

2014.9.20

GLAY EXPO×青い鯉のぼり



014年9月20日。プロジェクトを応援していただいているロックバンドGLAYが東日本大震災復興支援としてデビュー20thと10年ぶりのGLAY EXPOを東北に捧げるため、55000人を動員しGLAY EXPOを開催。青い鯉のぼりが会場ゲートに掲揚されました。プロジェクトを共に進めてきた和楽器ユニット「閃雷」がGLAYと共演さらに陸奥絆太鼓として東北各地で活躍する和太鼓奏者が集結し、GLAYと共に「I'm in Love」を演奏。音楽の繋がりは点から線となり、やがて一夜限りの「お祭り」=面に。復興への思いと感謝の思いを胸に、この日だけの音楽の響が東北の大地に刻まれました。

2014.10.9

滋賀県で講演会



滋賀県長浜私立西中学校で共同代表伊藤健人と和太鼓のミニコンサートが行われました。伊藤健人が被災したのは17歳。年の近い中学生とその時に感じた生の経験と想いを伝え、震災を忘れないこと、これからの未来に生かしていくことの大切さを共有しました。初の県外での講演と演奏となったこの年。これ以降講演を通し、繋がっていく縁も増えていきました。

2014.10.9

陽 HARU

被災地で写真と撮り続けるフォトグラファー平林克己さんの個展「陽 HARU」が台湾で開かれました。被災地の空に輝く太陽を希望ととらえ、開催されたこの個展ではメインテーマとして青い鯉のぼりプロジェクトの写真が選ばれました。

Taiwan

陽 HARU

Japan

感謝台湾！日本正在加油・
平林克己撮影展 in 台北

2014年10月18日(SAT)~26日(SUN) 新光三越台北站前店12F

家族の絆は全国との絆へ。

繋がることによって生まれる力を実感した1年。



青い鯉のぼり プロジェクト2015

復興に向けてのスピードが加速しはじめ、まちの景色はものすごいスピードで変わりはじめました。追悼と鎮魂の思いは少しずつ、これからの未来へ進んでいく力を帯びてきました。青い鯉のぼりプロジェクトは亡くなった家族に対する思いから始まったもの。誰にでもあるその感情は、次に来る災害に備えるためのきっかけとして、多くの人の共感を呼び、全国各地から講演の依頼がありました。プロジェクトが行っていること、伝えたいことをお話する回数が増え、その度にそこに繋がりが生まれました。

人の思いの変化あれば、環境の変化もある。この年まで青い鯉のぼりを掲揚していた場所は復興工事が急ピッチで行われ、その場所での掲揚はこの年が最後となりました。皆で共有した未来への思い。どうしたら100年先の未来へ青い鯉のぼりを残すことができるか。開催地の固定化、恒久的に設置することができるポールなど、次のステージへと進んでいくために話し合いを重ねた1年でもありました。

青い鯉のぼり
プロジェクト

青い鯉のぼり総数

800 旆

主な出来事

2015.2.22 三重県にて講演

(人と絆)チャリティーライブ実行委員会が主催となり、三重県津市で青い鯉のぼりプロジェクト講演会が行われました。東日本大震災の復興支援の中で出会い、青い鯉のぼりの寄贈や被災地訪問を通して現在も交流が続けられています。共同代表伊藤健人はこの講演が初の単独講演。三重県津市は南海トラフ巨大地震の際に津波が襲来する危険もあり、繋がりを強めるとともに、防災意識を互いに高める機会にもなりました。



2015.5. 箱根の空に青い鯉のぼり

2015年からは箱根の空にも青い鯉のぼりが掲揚されはじめました。東松島市だけではなく、こうして思いに共感した方の元で、全国各地で青い鯉のぼりが掲揚される場所が増えてきました。噴火活動による被害を受けており、地震に限らず、私達は次に来る災害の間を生きている=災間を生きていることを実感しました。



2015.5.5 青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.4

開催日時:2015年5月5日
開催場所:大曲浜新橋たもと
掲揚数:800旒

ロックバンドプリンセスプリンセスのリーダー渡邊敦子さんも直接青い鯉のぼりを掲げにきていただきました。



2015.9.6 茨木市から天国まで届け! 「青い鯉のぼり」プロジェクト



7月、大阪から一人東北を見に来た方が居ました。その方は東北の現状と青い鯉のぼりに込めた思いを大阪でも発信したいと、会いに来てくれました。東北への思いを聞き、9月、大阪の空に大阪青い鯉のぼりが泳ぎました。2016年には共同代表伊藤健人も現地へ行き、地元太鼓チームなどと共演をし、繋がった絆を確かめました。

2015.11.21~23 岡山・鳥取・兵庫で講演

被災地以外の様々な場所で講演や演奏することが多かった2015年。岡山県の災害支援ネットワークNPOかけはし主催で3日間に渡り各地で講演を行いました。プロジェクトを通して繋がり、現在、岡山鳥取でも青い鯉のぼりが掲揚されています。全国で震災を忘れないための活動が活発化していくのと同時に、震災5年を前に、震災で得た経験を未来につなげていく動きが加速していることを実感した3日間となりました。



震災から5年。確かに歩んだ道。
思いはより強く、共に未来へ。



青い鯉のぼり プロジェクト2016

震災から5年。東北に住む私たちにとっては長い短いで測れる月日ではなかったかもしれませんが、思いに大小は関係なく、同じ方向を向いていれば、大きな力になる。この5年間の中で幾度となくそんな瞬間を見てきました。今一度、自分たちが立っている場所で、過去と未来を見つめる年となりました。

復興工事の進捗に伴い、青い鯉のぼりプロジェクトは2回目のお引越しをしました。空に泳ぐ青い鯉のぼり、天まで響く演奏、そこに集う人たちを繋げる炊き出し、出店。色、音、香、天に通ずる要素が集った時、発信した思いは天に届く。天国から言葉で返事は帰ってこないかもしれないけど、空と風の表情で、私達に伝えてくれました。

プロジェクトに参加した証として、青い鯉のぼりTシャツもこの年から販売開始。全国に広がった絆はこの青い鯉のぼり下に集う中でより一層強くなり、そしてまた、それぞれの故郷に帰っていく。震災という悲しい出来事から始まったことではあるけれど、そこに集う人々は震災のあった過去を見つめ、そして前に進んでいきます。過去にも未来にも思いを発信することができる。青い鯉のぼりプロジェクトは震災を風化させない象徴であるとともに、共に同じ未来を見て、進んでいくきっかけになる存在となり始めました。

青い鯉のぼり総数

1021 旆

主な出来事

2016.5.5

2回目の会場引越～青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.5開催。

青い鯉のぼりプロジェクトが始まった東松島市大曲浜地区はかつて多くの家が立ち並ぶ港街でした。震災により壊滅的な被害を受け、市は大曲浜地区に人が居住する地区ではなく、産業用地として整備する方針を決めました。2015年まで、その復興工事が急ピッチで行われる景色の中、青い鯉のぼりはまちの復興の様子を見守ってきましたが、この年、これまで掲揚していた会場も嵩上げ工事が行われることとなりました。2回目の引越先となったのは同地区内にある萬寶院仮本堂前。慰霊碑や家族のお墓に見守られる場所で開催することとなりました。



2016.5.5

青い鯉のぼりTシャツ販売開始

青い鯉のぼりプロジェクトTシャツが復刻版として販売開始。これまではプロジェクトメンバーが着用していたものですが、参加する方から販売を望む声も多く、この年から青い鯉のぼりTシャツが販売開始されました。手ぬぐいとあわせて、参加する皆さんは更に青色に！



2016.10.1

東松島市震災復興伝承館オープン。

東松島市野蒜地区に、震災の記憶を後世に伝えていくための施設、東松島市震災復興伝承館がオープン。震災で被災した旧野蒜駅を改修して作られたこの施設では発災当時の状況、そこからの復興の歩みがパネルで紹介されています。その中に青い鯉のぼりプロジェクトを紹介するブースも設置されました。



目に見えない繋がり
目に見える繋がりへ。



青い鯉のぼり プロジェクト2017

青い鯉のぼりプロジェクトは毎年3月11日から5月5日まで東松島市に青い鯉のぼりが掲揚されます。私たちにとって大切な期間ですが、この年からその期間以外も、青い鯉のぼりに触れる時間を多く作ることができました。震災直後から応援していただいているロックバンド「GLAY」の皆さんからいただいたオリジナル青い鯉のぼりの掲揚と展示、市内各所での手ぬぐい、Tシャツの販売拡大。そして東松島市のあおい地区での青い鯉のぼり全戸掲揚。「青」という言葉は私達の希望の言葉。東松島市に本拠地を構えるブルーインパルスプロジェクトの青、あおい地区、そして青い鯉のぼりプロジェクト。この言葉に集い、未来への希望を託してきました。これまでの繋がりはより一層強く、形あるものとなりました。

青い鯉のぼり
プロジェクト

青い鯉のぼり総数
1792 旒

主な出来事

2017.3.9

東松島市震災復興伝承館でGLAYオリジナル青い鯉のぼり展示

プロジェクトの始まりから応援していただいているロックバンド「GLAY」の皆さんからオリジナル青い鯉のぼりを寄贈いただきました。これまでも様々な場面で関わり合いのあったGLAYの皆さんとの絆が形となりました。オリジナル青い鯉のぼりはCDがウロコに!思い溢れるこの青い鯉のぼりはこの日から東松島市震災復興伝承館で常設展示が開始され、ファンをはじめ、多くの方が思いに触れる場所となりました。



2017.4.21

東松島市あおい地区全戸で青い鯉のぼり掲揚

かつて大曲浜地区に居住していた方が多く住む東松島市あおい地区。防災集団移転事業により内陸に作られたこのまちの家の軒先にも青い鯉のぼりが掲揚されはじめました。あおい地区の住民の方々はプロジェクトでも沢山手伝いをしていただいております。この地区で掲揚された青い鯉のぼりは、全国との繋がりがあながらも、地元との繋がりを未来に残す証となりました。



2017.4.22

会場でGLAYオリジナル青い鯉のぼりが泳ぐ

会場に大きな青い鯉のぼりが沢山泳ぎ始めたこの日、GLAYオリジナル青い鯉のぼりも空を泳ぎはじめました。



2017.5.2～5.4

東松島市震災復興伝承館で青い鯉のぼり手ぬぐい、Tシャツ販売開始

これまでは催事会場や5月5日にグッズを販売していましたが、この日から東松島市震災復興伝承館でも購入できるようになりました。プロジェクト概要とGLAYオリジナル青い鯉のぼりを見ることができるこの場所は、震災の記憶を刻むだけの場所だけでなく、そこから生まれた希望を見て感じて、形として持ち帰ることができる場所となりました。



2017.5.7

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.6

開催日時:2017年5月5日
開催場所:萬寶院仮本堂前
掲揚数:1792旛



多くの思いはうねりとなり、
やがて未来に向けた一つの思いへ。



青い鯉のぼり プロジェクト2018

震災から7年を迎えたこの年、7回忌を過ぎ、青い鯉のぼりに触れる時間の空気感が少しずつ変わってきました。

これまでも追悼と鎮魂の思いから少しずつ未来へ向かっていく思いへとシフトしていく感覚はありましたが、この年はそれを一層感じる年でした。復興の中で変わりつくまちと、それぞれが心に抱える苦しみ、前に進みたい気持ち、その狭間に生まれる希望はこの7年間の中で、みんなで共有できる唯一無二のものとなりました。天国から優しく見守る思いは風となり、その風におよぐ青い鯉のぼりの下には、もう変わり果てた故郷は見たくない、足が遠のいていた地元住民の方も多く集い、お手伝いをしてくれました。思いを共有している中で、私達が応援していたつもりが、いつからか背中を押されていたり。そんな思いのバトンの受け渡しの中で、これからも前に進んでいくと、思いを新たにした1年でした。

青い鯉のぼり
プロジェクト

青い鯉のぼり総数

1835 旒

主な出来事

2018.3.3

心の音～未来へのハーモニー～

この番組は「音楽」をテーマに、ナビゲーターのMay J.さんが東日本大震災から丸7年が過ぎる各県の被災地を訪れ復興の進み具合や変化を自分の目で確かめ、岩手・福島・宮城の被災地に生きる演奏者と一緒に演奏する番組。伊藤健人とプロジェクトメンバーは和太鼓で参加。May J.さんと共に”心の音”を届けました。



2018.4

活動が教科書に掲載

青い鯉のぼりのか活動が教科書に掲載されました。100年先の未来に青い鯉のぼりが泳ぐ未来を作るために活動してきましたが、これにより一つ、私達がこの時代に生きた証を作ることができました。

教科書；中学校技術・家庭科用 技・家ハンドブック 家庭分野〈地域の人と繋がり〉

出版社；開隆堂



2018.5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.7



開催日時；2018年5月5日開催場所；萬寶院仮本堂前
掲揚数；1835旒

三回目の引越。見えてきた100年先の未来。



青い鯉のぼり プロジェクト2019

復興も大詰めを迎えた2019年。この年青い鯉のぼりプロジェクトは3回目の会場引っ越しを行い、東松島市あおい地区のすぐそばで開催しました。「あおい地区」は震災前はじまりの場所である東松島市大曲浜に住んでいた方々が数多く居住している地区。未来への思いが確かなものとなったこの年、過去と未来へ思いを発信するため、3月11日からはこれまで通り大曲浜に小さな青い鯉のぼりを、そして4月中旬からは新会場で大きな青い鯉のぼりが泳ぎはじめました。

同時に、ふと心に過去を振り返りたくなる気持ちが宿るときがありました。震災から9年が絶ち、薄れていく記憶をつなぎとめようとする気持ちが月日の経過とともに強くなったのかもしれない。もしもあのときこうしていば…。決して戻すことの出来ない時の流れに抗った年でもありました。

100年先の未来が見え始めたこの年、青い鯉のぼりはこの期間以外でも多くの場所に掲揚されました。熱い思いがつながれ実現した東北楽天ゴールデンイーグルスとのコラボ、24時間テレビへの出演、松島ハーフマラソンとのコラボ。

思いのうねりが加速していく中で、わかったことがあります。背負った傷はどれだけ月日が絶っても消えることはない。ずっと向かい合っていかなければいけない。でも、共に支えながら歩いていくことはできる。たくさんの未来を見た中で見つけたこの思いは、より一層私たちの心に力を与えてくれました。

青い鯉のぼり総数

1942 旒

青い鯉のぼり
プロジェクト

主な出来事

2019.4.13～14

青い鯉のぼりプロジェクト×楽天ゴールデンイーグルス Vol.1～

青い鯉のぼりプロジェクトと楽天ゴールデンイーグルスがコラボ。沢山の熱い思いが繋がれ、形となりました。東北から元気を発信していく「がんばろう東北デー」に合わせ、青をベースにしたTOHOKU BLUE MATCHユニフォームを着た選手、観客で彩られ、球場には青い鯉のぼりが掲揚、そしてプロジェクトメンバー、有志による和太鼓の演奏が行われました。



2019.5.5

3回目の会場引越～ 青い鯉のぼりの下に 腰を下ろす会Vol.8開催。

復興工事も大詰めに差し掛かったこの年。青い鯉のぼりプロジェクトは3回目の会場引越を行いました。引越先は東松島市あおい地区そばの東矢本運動公園。未来に向けた活動、思いが強くなりはじめたこの時期。地元住民の方々が多く住むこの場所で掲揚することは意味のあることでした。新しいけど、変わらない場所での掲揚。100年先の青い鯉のぼりの未来が見え始めました。



開催日時:2019年5月5日
開催場所:東矢本中央公園
掲揚数:1942旒

2019.8.24～25

青い鯉のぼりプロジェクト×24時間テレビ

8月24日、24時間テレビで取り上げていただきました。令和元年、新世代に入り新しい角度から人と人の絆をテーマにお送りする番組のトップバッターとして「青い鯉のぼりプロジェクト」が全国放送の生放送で紹介されました。天国にいる子供たちはじめ亡くなられた方に届くように、一生懸命生きている方々のために、松本潤さんと一緒に和太鼓を打ち鎮魂の花火とともに奏でました。

翌日8月25日、24時間テレビ2日目は宮城県会場である勾当台公園市民広場で、プロジェクトメンバーSAMURAI APARTMENTにドラム伊藤健人とguitar support KIMで震災から8年被災者の声を綴った、後悔しないように大切な人には今すぐ、どんな形でもいい愛を伝えよう。というテーマの「もしも…」を生放送LIVEを行いました。インタビューは晴れていましたが、曲になるとポツ、ポツと雨。曲も佳境に入ると土砂降りの雨…。そして演奏が終わると雨は止みまた太陽が出て来ました。

SNSでも多くの反響がありましたが、きっと昨日から天国の子供達が青い鯉のぼりの元に遊びに降りて来て、帰るときの雨、だったのかもしれない。言葉ではありませんでしたが、天国と繋がった、そんな瞬間でした。




2019.10.6

青い鯉のぼりプロジェクト×松島ハーフマラソン

沢山の初の試みがあったこの年。ラストは松島ハーフマラソンとのコラボ企画となりました。東松島市の野蒜駅が初の折り返し地点となり、折り返し地点で青い鯉のぼりの掲揚、和太鼓の演奏で最後の一人が折り返すまで応援しました。また、タイコラボ講師によるユニット「きげつ」が参加者を迎える演奏をし、EXPOエリアにも青い鯉のぼりが掲げられ、手ぬぐいやTシャツが販売されました。





喜びと悲しみの間に生まれた
本当の優しさ。
苦難と勝負の1年。

青い鯉のぼり プロジェクト2020

人に会い、人と思いの温度を共有することで進んできた青い鯉のぼりプロジェクト。新型コロナウイルス感染症の流行が始まったこの年、目には見えない脅威と戦っていく中で、活動開始後初めて、「青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会」を中止しました。私達がやらなければいけないことはこれ以上感染を拡大させないこと。どんな環境であっても感染症リスクを避けられない中、苦渋の決断でした。この年、これまでの繋がり強さを信じて、新しい形での開催方法を模索しました。そして、今年は画面の中に青い鯉のぼりを上げよう！その思いの元、ネット上で「青い鯉のぼり Remote プロジェクト」を開催。全国の仲間たちから集まった動画を1つの作品にまとめ、そして医療従事者への感謝の思いを込め、公開されました。こんなものではへこたれない！これまでつなげて来た絆は、私達の思いに呼応し、本当に沢山の作品が寄せられました。会えなくても繋がることはできる。それを全国の仲間たちに教えてもらった1年となりました。

この年の4月11日、共同代表伊藤健人の兄弟である伊藤広夢が事故により急逝。9年の間、3人で多くの苦難を乗り越えてきた中の訃報でした。もうこれ以上はだめかもしれない。挫けそうになる中を支えてくれたのは残された家族、そして9年間寄り添ってくれた沢山の仲間たちでした。

東日本大震災から10年目を前に、多くの試練を乗り越えた1年となりました。

主な出来事

2020.4

Discover Higashimatsushima



東松島市で作成した観光PR動画Discover Higashimatsushimaに青い鯉のぼりプロジェクトが参加しました。東松島市の魅力詰まったこの動画では楽曲編曲KYO(SAMURAI APARTMENT)、RECにはSAMURAI APARTMENT、演奏は伊藤健人を初め和太鼓(創作和太鼓駒の会/TAIKO-LAB 仙台/沙嵐)、よさこい(羽跳天)、振り旗(大漁旗)は引退した青い鯉のぼりを繋ぎ合わせて制作(SAKUYA)とプロジェクトと繋がりのあるメンバーで撮影に望みました。東松島市は震災後、全国、世界中からの支援により多くの絆を生み出してきました。「青」に集うその絆を感じることができる動画は東松島市の観光PRサイトにて公開中です。

2020.5.5

青い鯉のぼりRemoteプロジェクト



9年目の被災地。未来の姿が確実に見えてきた矢先、震災とは異なる脅威に直面しました。新型コロナウイルス感染症の流行。これまでの間、プロジェクトは人に会い、人の思いを直接感じることによって生まれた繋がりでここまで進んできました。人と会うことが制限されてしまった世の中になってしまったこの年、沢山の青い鯉のぼりは泳ぐことができず、これまで毎年行ってきた青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会を初めて中止。苦渋の決断をしました。そんな中で、これまでの繋がりを絶えさせたくない思いから、ネット上で動画を集め、一つの作品として公開する青い鯉のぼりRemoteプロジェクトをネット上で開催。今年は画面の中に青い鯉のぼりを泳がせよう!その思いの元に沢山の動画が寄せられました。GLAYのTeruさんからもこの動画にメッセージを寄せていただき、これまでの繋がりの強さを再認識する日となりました。

2020.10.4

青い鯉のぼりプロジェクト×泉ヶ岳ソーシャルディスタンス花火大会



新型コロナウイルスにより、夏のイベントが軒並み中止となり、東北の短い夏を彩る祭りもなくなってしまったこの年。花火が照らすぼくらの未来に向かって進んでいけるよう願いを込めて、泉ヶ岳ソーシャルディスタンス花火大会が開催され、入口に青い鯉のぼりが掲揚、SAMURAI APARTMENTのライブが行われました。この年に沢山の青い鯉のぼりが上がるのはこの年が初めて。この瞬間を待ちわびていたように、青い鯉のぼりが泳ぎました。

2020.10.9

青い鯉のぼりプロジェクト×楽天ゴールデンイーグルス Vol.2



この年も楽天ゴールデンイーグルスとのコラボが実現しました。新型コロナウイルスと台風接近により規模は縮小されましたが、TOHOKU BLUE DAYに合わせ思いを繋ぎ、夕方からはプロジェクトメンバーSAMURAI APARTMENTと伊藤健人でライブを行いました。



青い鯉のぼりと共に歩んだ10年。これまで出会ったすべての人へ、
過去へ未来へ、「風を興す」!

青い鯉のぼり プロジェクト2021

10年。

震災が起きたとき、誰もこの未来を想像することは出来ませんでした。幾多の出会い、喜び、悲しみを経験し、その度に一步、また一步と進んできた私達の周りには、血が繋がっていなくても「家族」のように思える仲間たちが沢山できました。ゴールではなく通過点。これまで背中を押してくれたいくつもの思いという名の風。この年、これからは自分達から風を起こしていく!という思いを込め「風を興す」というテーマを掲げました。

風は暖かいところと冷たいところの間、温度の「差」の中に吹く。今生きているこの世界と、天国の間の距離は、果てしなく遠いのもかもしれない。でも、そこに風を興すことができれば、必ず繋がることできるはず。新型コロナウイルスの影響は昨年以上に大きくなり、幾度の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置に翻弄される中、今年は何としても青い鯉のぼりを掲揚することを目指し、奔走しました。

10年目の3月11日、311匹の青い鯉のぼりが泳ぎはじめ、5月5日は青い鯉のぼりリモートプロジェクト2021-風を興す-を開催。そしてこの年から仲間となったTsunagodの皆さんのバックアップを得て、開催日時変更、規模縮小、スタッフ全員の抗原検査を実施し、5月9日、2年ぶりに青い鯉のぼりが東松島市の空に泳ぎました。

青い鯉のぼり
プロジェクト

青い鯉のぼり総数
2000 旒

Events of the year 2021

主な出来事

「風を興す」



東日本大震災から10年。歩んできた道を振り返れば、本当に沢山の人と出会ってきた10年でした。

天国に向けたメッセージを送り続けてきた私達。今を生きる人たちと思いを共有してきた私達。その間には「風」が生まれ、私達の背中を何度も後押ししてくれました。これからは自分たちの中から風を興していく。そんな思いから、10年目の2021年、「風を興す」というテーマを掲げました。

TsunaGodとの繋がり



この年、100年先のお祭りへ!を合言葉にこれまで支えてくれた仲間たちに加え新たな仲間達が加わりました。TsunaGodの皆さんです。ここのプロジェクトチームは長江健次さん(イモ欽トリオフツオ)、滝ともはるさん(堀内孝雄さんと南回帰線のデュエット)、篠塚正典さん(長野オリンピックのエンブレムデザイナー)、橋本勉さん(TsunaGodエグゼクティブプロデューサー)、蓑輪单志さん(ex:ハウンドドッグでffなどの作曲家)など、各界の匠で構成されており、数々の奇跡の繋がりにより、出会うことが出来ました。3月11日、5月の掲揚時にも参加いただき、青い鯉のぼりを共に掲揚しました。3月11日の夜には蓑輪单志さん、滝ともはるさんと同じステージの上で演奏を行いました。

2021.3.11

動き出した10年目の時



10年目の3月11日は、とても穏やかな一日でした。毎年この日は風が強かったり、雨が降ったり、雪が降ったり、天国から見守りにきてくれた人達の感情を表しているような天気でした。朝から夕方まで、この日は穏やかな日差しと風に包まれる中、311匹の青い鯉のぼりの掲揚と鎮魂の演奏を行いました。その日の空は天国からこれまでずっと、見守っていたよと、語りかけてくれるような、優しい空でした。

そしてその夜、プロジェクトメンバーSAMURAIAPARTMENTと伊藤健人は震災後初めて、ライブという形で夜を過ごしました。伊藤健人が震災で被災した場所は仙台のライブハウス。リハーサル中に揺れに襲われ、その日行われるライブでは演奏できなかった。10年間止まった、ライブの記憶。その時を動かすため、今年はライブという形で3月11日の夜を過ごしました。演奏にはTsunaGodから蓑輪单志さん、滝ともはるさんも参加。蓑輪さんとはハウンドドッグの代表曲「フォルティッシモ」を共に演奏しました。

2021.4.11

100年先へ風を興す!青い鯉のぼり扇子発売



今年掲げた「風を興す」というテーマ。今年は鎮魂の十年に加えて、様々な形で生きた人たち自身の時を未来に動していく思いが込められています。その思いを込め、この年繋がったTsunaGodの皆さんから青い鯉のぼり扇子を寄贈していただきました。扇子は京都の老舗白竹堂、デザインは長野オリンピックのエンブレムデザインをされた篠塚正典さん。優しく芯のある風をみんなで起こして、気持ちよく泳ぐ青い鯉のぼりが目に浮かんでくるような、そんなデザインの扇子。「風を興す」が形となりました。

主な出来事

2021.5.5

青い鯉のぼりリモートプロジェクト2021-風を興す-

1年が経過しても見えないコロナウイルスの収束。今年の5月5日こそは!という思いを叶えたいと思っていた矢先、宮城県内の感染者数増加により、緊急事態宣言の延長と、まん延防止等重点措置が全国で初めて宮城県に発令されました。これにより、イベントとして開催することが厳しい状況となりました。それでも、何もしないのではなく、思いを未来に繋いでいくこと。それがどれだけ大切なことを教えた2020年があったから、私達は2度目のリモートプロジェクトを開催することを決めました。この年は動画を1つにまとめるのではなく、各SNSに自身で動画を投稿し、「青い鯉のぼり2021」のハッシュタグで繋がる形で開催。投稿開始後、本当に沢山の動画が投稿され、タイムラインが思い思いの「青」に彩られました。

2021.5.9

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.9



リモート開催と同時に進めていたことがありました。それは2年ぶりのリアル開催。やっぱり、青い鯉のぼりを空に泳がせたい!10年という通過点のこの年、その思いはどうしても叶えなかったのです。プロジェクトメンバーで何度も話し合いを繰り返し、日に日に変わっていく感染拡大状況にアンテナを張り、一喜一憂、一進一退を繰り返しました。そしてまん延防止等重点措置が明けた5月9日、感染症対策徹底の上、演奏と出店の大幅縮小、そしてスタッフ全員の抗原検査がTsunuGodのみなさんのバックアップにより実現し、開催することが決定しました。

2年ぶりに沢山の青い鯉のぼりが泳ぐ光景は感無量でした。規模は縮小し、これまでのような賑わいは少なくなってしまったかもしれないけれど、青い鯉のぼりを見る人たちの目には確かに希望が宿っていました。波乱万丈の10年。1匹の家族の青い鯉のぼりは、みんなの青い鯉のぼりへ。東松島の空に、未来への風を興すことができました。

重ねた九回、迎える十回。三年ぶりの正常開催。



青い鯉のぼり プロジェクト 2022

東日本大震災から10年を超え、青い鯉のぼりプロジェクトに通う思いはより大きく強くなりました。震災がきっかけで始まったプロジェクトは、いつしか震災だけにとどまらず、訪れる人の人生や思いに寄り添い、再会を誓う場所となりました。

新型コロナウイルスの波が何度も訪れ、ウイルスがある日常が当たり前になりつつあった2022年5月5日、「青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会」を3年ぶりにフル開催。3年分の思いを込め、快晴の空の下で青い鯉のぼりが空を舞いました。

プロジェクトが歩んだこれまでの日々の中で、こんなにも多くの人出会うことができました。思いとエネルギーに満ち溢れたこの場所で過ごせること。1年のうちの1日だけでも、その時間を過ごすことができたなら、未来も、今も、過去すらも、明るく照らしてくれる。共に過ごし、それぞれの日常に帰って行く人々の表情が、それを物語っていました。

昨年の5月以降は東北楽天ゴールデンイーグルスとのコラボ、10月には2023年春公開となる映画「有り、触れた、未来」へ青い鯉のぼりが登場、劇中の太鼓の演奏チームとして「蒼き風の民」を結成。この年の5月5日には「蒼き風の民」が演奏を行い、映画で出会った仲間たちもこの場所に集結。10年を超えて、様々なものが変わって行っても、ここで感じた思いのもと、新しい未来へと船を出す瞬間が生まれました。

青い鯉のぼり総数

2867 旒

青い鯉のぼり
プロジェクト

Events of the year 2021.6～

主な出来事



2021.6

がんばろう東北× 青い鯉のぼりプロジェクト

これまでもコラボしている東北楽天ゴールデンイーグルスとのコラボが2021年も実現。球場前には東松島市以外では過去最大規模の青い鯉のぼりが泳ぎました。

ステージでは青い鯉のぼりと10年、仲間の絆で支え合った仲間達と期間中三日間に渡り毎回異なる編成でライブを開催。スマイルグリコパーク内のロンドンバス内では青い鯉のぼりプロジェクト10年の軌跡をパネル化し、青い鯉のぼりミュージアムを開催。白い鯉のぼりも設置し、観客、選手の皆さんから多くの青いメッセージをいただき、オリジナルの青い鯉のぼりが完成しました。



2021.10.10

秋のこどもの日 in 蔵王

5月5日の倍、10月10日。宮城で天国が一番近い場所、蔵王町で青い鯉のぼりを揚げませんかとお声がけいただき、プロジェクトも実行委員会の中に入り、「秋のこどもの日in蔵王」が10月10日に開催されました。10年前、誰もが悲しみの底にあった震災の日々から生まれたこのプロジェクトは、震災を経験した人もしない人も、等しく未来に向かって希望を感じることで存在となりました。RemoFes & リアフェス（音楽）、スポフェス（スポーツ）、源泉ひなたのde Cinema（映画と温泉）、食フェス（キッチンカーブース）と、複数のジャンルが融合し、その上で青い鯉のぼりが蔵王の空を泳ぎました。大人も子どもも、天国も地上も、日本も世界もみんなが笑顔になる事を願って開催されたこの日、青い鯉のぼりは新しい形の未来を見せてくれました。

青い鯉のぼりは映画の中へ。

映画「有り、触れた、未来」へプロジェクトが参加。



青い鯉のぼりは映画の中へ。タイトルは「有り、触れた、未来」。東日本大震災から10年が経過した宮城を舞台に描く“命と向き合う物語”。異なる人生を歩んできた登場人物たちが、それぞれの心の中にある辛さ、葛藤と向き合い、未来を見つけて行くその先にある景色として、青い鯉のぼりが空を舞いました。あわせて青い鯉のぼりを支える太鼓の仲間たち、主演キャストで構成される劇中の架空の和太鼓チーム「蒼き風の民」が誕生。監督と2021年の3.11に出会い、思いと言葉を重ねて迎えた撮影の日々は、仲間たちと共に過ごし、未来へのエネルギーに溢れた瞬間の連続でした。生きる力を届けるこの映画の中で、青い鯉のぼりは作品として語り継がれ、そしてそこに関わった仲間たちの間には強い絆が生まれました。震災にとどまらない希望の象徴としての色合いを帯びてきた青い鯉のぼりに込められた思いは、この出会いをきっかけにさらにその思いを強く、広くしていきます。

目には見えない「未来」が、この出会いを通して確かに見え始めました。

青い鯉のぼりと、 和太鼓。

青い鯉のぼりの始まりは、伊藤健人の一通のメールから。その思いは街を超え、人を超え、幾重にも枝分かれして大きな思いのうねりとなりました。最初の時、2011年に伊藤健人の自宅前に現れたのは、わずか1ヶ月で全国から集まった200匹を超える青い鯉のぼりと、和太鼓の仲間たち。伊藤健人自身も和太鼓が大好きで、憧れのチームに「復興コンサートを一緒に開催してほしい」と連絡をとったその一報から、このプロジェクトは始まりました。一番最初から、伊藤健人を支えてきたのが和太鼓を演奏する仲間でした。

「天国まで届け！」がむしゃらな思いに応え吹き始めた風、天まで届く和太鼓の音、子供達の声。特別意識をしたわけではなく集まったそれらによって、この場所は間違いなく天国と繋がっている実感が生まれる場所とあり、青い鯉のぼりと和太鼓という存在は切っても切り離せない、大切な存在となったのです。

以降、この思いはプロジェクトの源流となり、今日まで受け継がれてきました。そしてこれからも未来に向けて、発信されていきます。



音楽が紡いだ繋がり

2011年から始まった青い鯉のぼりプロジェクト。その始まり1通のメールから。復興コンサートと一緒に開催してほしいというその思いの元で繋がったところから始まります。以降、青い鯉のぼりが泳ぐそばには音楽がいつも響いていました。そうした中で繋がってきた思いは音楽アーティストにも届き、青い鯉のぼりに思いを書き込んだり、共に演奏することで形となり、紡がれていきました。

GLAY

プロジェクト開始当初から応援いただいているロックバンド「GLAY」。2011年、情報が錯綜する中、SNSで繋がったことからこの縁は始まりました。2014年にはGLAY EXPOでプロジェクトメンバーだった和楽器ユニット「閃雷」が共演、GLAY EXPO MICHINOKU KIZUNA TAIKOでコラボ演奏をし、絆を確かめ合いました。2016年にはTeruさんが東松島市大曲浜を訪れ手を合わせていただきました。2017年にはGLAYオリジナル青い鯉のぼりが寄贈され、東松島市震災復興伝承館に展示、4月22日には東松島の空を泳ぎました。

プリンセス プリンセス

2012年に東日本大震災の復興のため期限限定で再結成したプリンセスプリンセス。2013年5月そのリーダー渡辺敦子さんが私達の話に耳を傾けていただき、忙しい中大曲浜に足を運んでいただき、青い鯉のぼりにメッセージを書いていただきました。

2014年5月5日には再び青い鯉のぼりを持って、朝から掲揚作業に参加していただきました。そして2016年3月11日、再結成活動の集大成仙台PITのこけら落としLIVEの際にPRINCESS PRINCESSの皆さん全員から青い鯉のぼり手拭いにサインをいただきました。

TOHOKU ROCK'N BAND

2011年仙台から始まった史上初となる東北6都市のお祭りが一同に会して行われる「東北六魂祭」。箭内道彦さんプロデュースにより2013年の福島開催から新たに閉会式を飾る、東北6県出身のアーティストによる「TOHOKU ROCK'N BAND」がTOHOKU ROCK'N 音頭を発表し、そのメンバーである高橋まことさんの推薦により、毎年オープニングの希望の音を奏でる閃雷のメンバーも加わることになりました。そして2014年山形で開催された特別編成メンバー『TOHOKU ROCK'N BAND (2014特別編成)』のメンバーのHISASHI(GLAY)、因幡晃、あんべ光俊、荒井良二、畠山美由紀、富澤タク、高橋まこと、伊藤サチコ、大久保 剛、閃雷、箭内道彦、皆さんからサインをいただきました。

AUN J-CLASSIC ORCHESTRA

和楽器を再編成し独自の世界観を構築するAUN-J CLASSIC ORCHESTRAの皆さん。2011年の5月東北での公演終了後、AUN-J CLASSIC ORCHESTRAの皆さんが1回目の青い鯉のぼりプロジェクトの会場となった伊藤健人の家のある大曲浜を訪ね、その場で鎮魂の演奏をしていただきました。

また、その年の9月25日に行われた青い鯉のぼりプロジェクト復興と追悼のコンサートM's Japan Orchestra「LIVE GROUND ZERO」にゲストで参加。2015年、日本でも有名なフレンチポップの歌姫クレモンティーヌとのコラボアルバムを発表し行われた全国ツアーの最終日は宮城県の名義如来前で行われ、閃雷がゲスト出演。

そこでclementine meet AUN J-CLASSIC ORCHESTRAの皆さんからサインをいただきました。

May J.

2018年に3月に放送された「心の音～未来へのハーモニー～」。

この番組は「音楽」をテーマに、ナビゲーターのMay J. さんが東日本大震災から丸7年が過ぎる各県の被災地を訪れ復興の進み具合や変化を自分の目で確かめ、岩手・福島・宮城の被災地に生きる演奏者と一緒に演奏する番組。伊藤健人とプロジェクトメンバーは和太鼓で参加。May J.さんと共に「心の音」を届け、演奏後、May J.さんから青い鯉のぼり手ぬぐいにサインをいただきました。



地元・次世代との繋がり

バラバラになってしまった地域のコミュニティ。一人ではなかなか足が向かなかったかつて住んでいた地域。震災以降住所も連絡先も解らなかった近所の人たちが、人伝に掲揚作業に集まって来ました。この活動を通し、地域のコミュニティが再び形成され、青い鯉のぼりの下には十元の方々の笑い声も聞こえるようになってきました。

私たちが目指す100年先のお祭りは、今を生きる世代だけでは成しえません。継続していく中で、これからの時代を担う世代に語り伝えていくことが大切です。活動して行く中でその動きは加速し、様々な形で青い鯉のぼりが広まっています。



毎年3月～5月に開催する青い鯉のぼり会議は大曲市民センター、あおい地区、プロジェクトメンバーで構成。プロジェクトを下支えしてきた大切な仲間です。



あおい地区では4月に「青い鯉のぼりとフラワーフェスティバル」が開催されはじめました。プロジェクトからも創作和太鼓駒の会が参加！みんなで海苔巻を作っています。



青い鯉のぼりのポールを毎年建てていただいているのは市内のマルタツ熊谷建設株式会社の皆さん。この方々の協力なしでは沢山の青い鯉のぼりは空に泳ぐことはできません。表には出てきませんが、プロジェクトの根幹を支える影の立役者です。



青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会Vol.5からは地元の大曲浜獅子舞保存会が演奏に参加。獅子舞を見て懐かしむ地元住民の方もちらほら。会の締めくくりとなる最後のステージで演舞を行い、開催する地を地鎮して締めくくりとなりました。



5月の掲揚終了後はプロジェクトメンバーと地元有志が集まった鯉のぼりの集計作業を行っています。集計中はみんなが仲間。顔を知らなくてもみんなで声をかけあって作業は進んでいきます。集計結果の発表はドキドキです。



2021年からは東松島市地域おこし協力隊、東松島市職員の皆さんも作業に参加。壊れた青い鯉のぼりの修繕作業を一緒に行いました。地元の未来を担う若い世代の輪が更に広がりました。



プロジェクト開始後、活動を共にしているのが石巻西高校生徒の皆さん。共同代表伊藤健人の母校でもあり、毎年集計、修繕作業、腰を下ろす会などのお手伝いをいただいています。在籍している生徒の交代もある中、長い間青い鯉のぼりに込められた思いは受け継がれ、こうして次世代に伝わっています。卒業後も見に来たい！参加したい！という声も聞かえてきました。



ライブやイベントの際に駆けつけてくれるのは仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校（SMJ）の学生の皆さん。エンタメ業界で働くことを志したみなさんの強力な運営バックアップによって、数々のコラボイベントは支えられています。

全国・世界との繋がり

青い鯉のぼりは全国と世界に、沢山の繋がりを作ってくれました。
それぞれが青い鯉のぼりに思いを馳せ、それぞれのまちに青い鯉のぼりを掲げています。

これまでプロジェクトが現地に行ったり、東松島市に来ていただいたりなど、これまでの繋がりの一例を紹介しています。詳しくはオフィシャルHP、Facebook、Twitterをチェック。

Twitter

Homepage

Facebook



秋田県大館市
秋田看護福祉大学

山形県山形市
山形西中学校

岩手県野田村
野田中学校

栃木県宇都宮市
作新学院中等部

神奈川県箱根町
箱根宮城野社中

三重県津市
「人と絆」チャリティーイベント

大阪府茨木市
茨木市から天国まで届け！
青い鯉のぼりプロジェクト

岡山県
新見市 津山町
災害支援ネットワークNPOかけはし
美作大学ボランティアセンター

鳥取県鳥取市
災害支援ネットワークNPOかけはし

山口県光市
虹の鯉のぼりプロジェクト

滋賀県長浜市
長浜西中学校

WORLD



【アメリカ合衆国】

カリフォルニア州 ロサンゼルス
ネバダ州 ラスベガス
バージニア州 アッシュランド ランドルフメイコン大学